

(日本銀行仮訳)

2008 年 5 月 13 日

支払・決済システム委員会

プレス・リリース

中央銀行は、外為決済リスク削減のための追加措置を要請

BIS 支払・決済システム委員会 (CPSS) が本日公表した報告書「外為決済リスク削減の進展について」は、外為決済リスク削減に向けたさらなる取組みの必要性について強調している。同報告書は、外為市場において活発に取引を行う 100 先以上の銀行およびその他の主体が、外為取引の決済に伴うリスクをどのように管理しているかに関する大規模なサーベイの結果を扱っている。同報告書には、システミック・リスクをもたらす残りのエクスポージャーを削減・管理するための、個別の主体、業界グループ、および中央銀行に対する具体的な提言が挙げられている。

ニューヨーク連邦準備銀行総裁で CPSS の議長であるティモシー F. ガイトナーは、「金融サービス業界は、外為決済リスクへの対応を大幅に進展させた。もっとも、残りのエクスポージャーや、これまでの進展が後戻りするリスクに対処するため、追加的にできること、なすべきことがある」と発言した。

外為決済リスクは、そのシステミック・リスクへの影響から、長い間、G10 諸国の中央銀行総裁および CPSS の懸念事項であった。サーベイ結果を踏まえ、中央銀行は、金融機関が外為決済エクスポージャーの十分な管理を継続的に行うことを確保するため、銀行監督当局およびその他の当局との協力のあり方を検討していく予定である。

オランダ中央銀行総裁でバーゼル銀行監督委員会の議長でもあるノート・ウェリンクは、「バーゼル銀行監督委員会は、この重要な報告書を歓迎する。また、さらなる進展を促すための CPSS との最善の協力方法について、既に話し合いを始めている」と述べた。

また、ガイトナー氏は、「最近の市場環境は、金融市場を支える決済インフラが強固であるとともに高い信頼性を有し、不測の事態が生じた場合でも市場が正常に機能するという信頼感が維持されることの重要性を際立たせている」と発言した。

G10 諸国の中央銀行は、1996 年に、外為取引の決済の仕組みが内包するシステミック・リスクを削減するための包括的かつ長期的なストラテジーを提唱した。今般公表されたサーベイ結果は、このストラテジーが大きな成功を収めたことを示している。

特に、外為取引の 55%は現在、「2 通貨条件付決済 (payment-versus-payment)」を専門に行う CLS (Continuous Linked Settlement) というサービスを用いて決済されている。

「これは重要な成果であるが、追加的な措置が必要である」とガイトナー氏は述べた。すなわち、外為取引の 45%は、引続き CLS 以外の方法で決済されており、その殆どが外為決済リスクに晒される従来型の方法で行われている。さらに、外為決済エクスポージャーのうち半分は、日中のみならず、オーバーナイトで発生している。

これらを踏まえ、本報告書は、個別の主体、業界グループ、および中央銀行に対し、以下の取組みを提案している。個別の主体は、自社におけるリスク管理体制やインセンティブの仕組みが、外為決済リスク削減効果の高い決済方式を選好することを確保する必要がある。業界グループは、残存リスクの削減に資する外為決済サービス、とりわけ当日物取引や一部の翌日物取引の決済において、こうしたサービスを今後も構築していくべきである。中央銀行は、監督当局と協力し、金融業界による継続的な進展を促がしていくことが求められる。

報道機関向けの情報

本報告書は、BIS のウェブ・サイトから入手可能である。サーベイは、CPSS 傘下の外為決済リスク小委員会により運営された。同小委員会の議長は、ニューヨーク連邦準備銀行シニア・ヴァイス・プレジデントのローレンス M. スイートである。昨年 7 月には、報告書の市中協議版が公表されている。

<CPSS とは何か>

支払・決済システム委員会 (CPSS) は、中央銀行が支払・決済の仕組みの動向をモニタリング・分析し、関連する政策課題を検討するためのフォーラムである。CPSS 議長は、ニューヨーク連邦準備銀行総裁のティモシー F. ガイトナーである。CPSS の事務局は、BIS が務めている。CPSS に関する詳しい情報および公表物は、BIS のウェブ・サイト (<http://www.bis.org/cpss/index.htm>) から入手可能である。

<外為決済リスクとは何か>

外為決済リスクとは、外為取引における一方の当事者が売渡通貨を支払ったものの、買入通貨を受け取ることができないリスクである。同リスクは、流動性リスク (買入通貨を期日に受け取ることができないリスク) および信用リスク (買入通貨を期日およびそれ以降のいかなる時点においても受け取ることができないリスク) からなる。この場合、一方の当事者の外為決済エクスポージャーの大きさは買入通貨の全額と等しくなる。外為決済リスクおよびその発生源については、「外為取引における決済リ

スクについて（原題：Settlement risk in foreign exchange transactions）」（BIS、1996 年）を参照。

<CLS 銀行とは何か>

CLS 銀行は、外為取引を「payment-versus-payment 方式」で決済する手段を提供する*。同行は 2002 年に設立され、現在、1 日当たり平均約 4 兆米ドルに相当する、15 通貨の外為取引関連の決済を行っている。CLS 銀行は、民間銀行およびその他の金融機関により所有されている。詳細は CLS のウェブ・サイト (<http://www.cls-group.com/>) を参照。

*（日本銀行注）CLS の概要については、「決済システムレポート 2005」（日本銀行、2006 年 3 月）を参照。

<1996 年に中央銀行が打ち出したストラテジーとは何か>

G10 諸国の中央銀行は、1996 年に、外為取引の決済の仕組みが内包するシステミック・リスクを削減するための包括的かつ長期的なストラテジーを提唱した。同ストラテジーは、問題を解決する上で民間部門の行動を重視している。具体的には、個別銀行が自身の外為決済エクスポージャーを管理するために採る行動、業界グループがリスク削減に資する多通貨サービスを提供するために採る行動、中央銀行が民間部門における迅速な進展を促すために採る行動、の 3 項目からなる。同ストラテジーは、上述の「外為取引における決済リスクについて」の中で示された。

以 上